

嗚呼・冒険王

作・演出／岡部耕大

1993年(平成5年)冬、岡部耕大は「鬼火」という登場人物3人だけの一幕物を発表しました。副題を「恨みに時効なし」としたこの作品は、男の恨みと嫉妬と心の奥に鬼火のように燃える復讐の執念を描いて、すでに各新聞雑誌の劇評で「傑作」の評価を頂きました。

「嗚呼・冒険王」はその延長線上にある作品です。「もし、幸徳秋水に落とし嵐がいたら」。まだ平成になったばかりの頃、岡部耕大はこの作品をそこから構想しはじめまし

た。暗く沈みがちな不景気の平成の時代を活劇で笑い飛ばし、演劇のもつ活力をもつ一度呼び戻すことは出来ないか。それが、「嗚呼・冒険王」のはじまりでもありました。

「嗚呼・冒険王」は「大徳寺賀正(25歳)」を主人公にしたタイナミックな歴史劇です。「嗚呼・冒険王」は、すべての観客が待ち望んだ痛快愉快スベクトル冒険人間活劇であり、大徳寺賀正を主人公とする痛快な復讐譚です。

「ものがたり」

明治三十七年二月、日本は自国と比較にならぬ強大国ロシアに宣戦布告した。緒戦の日本軍の勝利に続き、十二月には旅順のロシア要塞を苦心のすえ攻め落とし、翌三十八年五月にはバルチック艦隊を日本海に破った。日本中が提灯行列で沸き立ったのである。号砲が轟き、爆竹と人波が祝勝気分を煽る。賀正が大徳寺の境内に捨てられていたのは、そんな夜だった。大徳寺は箱根連山の迫る温泉街、湯伊賀原の外れにひっそりと闇に浮かんである。生まれたばかりの賀正は、微笑んでいるばかりで、賀正を見つけた大徳寺住職寛山も「肝の座った男よ」とあきれられるほどであった。賀正のふところの手紙は「不憫なこの子の父は高知県梶田郡中村の人、家は薬種商と酒屋を営み、奥書院や回廊、式台つきの富裕な商家にて、幕末の勤王志士の流れをくむ漢詩人……。明治三十八年の一月元旦に生まれたと書いてあった。

「正味の誕生の生まれとなあ。まずはめでたい、よし、この子の名前は今日から賀正だ。」のちの冒険王賀正はすくすくと育っていた。大変な健脚家で、天狗のように山を走り、博覧強記、抜群の記憶力を兼ね備えていた。古本屋で「太平記」を見て買いたくなったが、貧乏寺の子供には手が出ない。やむを得ず、小学校の帰りに三枚、五枚と「太平記」を立ち読みして帰り、暗記したものを書き写して半年で全五十巻を写し終えた。このことが町中で大評判となり、人間業ではないと絶賛された。寛山は大徳寺を政談演説会場に開放していた。民権の壮士連中は、この講演に立つて官憲横暴の非を鳴らし、群衆の喝采を博していた。古びた本堂から壮士の怒号がきこえてくる……。

突然、大徳寺の門が蹴破られ、日本刀を帯びた官憲が、どつと闖入して来た。寛山ははじめ同志連はつぎつぎと捕縛され、引き立てられた。屋根裏から、それを見ていた賀正は「仇は、俺がうつ」と子供心にも決心する。鬼島亭と呼ばれた薩摩藩士出身の黒柳鉄平の民権弾圧は、この時頂点に達したのである。賀正、天涯孤独のこの男は、大胆不敵、荒唐無稽、抱腹絶倒に明治、大正から昭和の初期を生きた。人々は「幸徳秋水の落とし嵐ではなかったのか」「あれこそが冒険王よな」と噂しながらも、デカタン

スとファシズムの濁流が渦巻きはじめた大正から昭和の時世に、この男の啖呵のような生涯には心からの快挙の拍手を送ったのである。



三浦浩一



川上麻衣子



北原佐和子



土家里織



橋本美加子



根本和史



平野 稔



岩田安生



瀬川新一



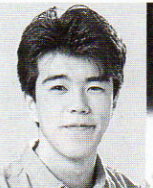
三上伸行



服部博行



小嶋 章



中下信哉



白国秀樹




有田麻里

11月16日(水) → 23日(祝)

御入場料 A席7,000円 B席4,000円(税込)
キャンパスシート(学生当日割引・各回限定20名) A席半額

| 11月 | 16水 | 17木 | 18金 | 19土 | 20日 | 21月 | 22火 | 23祝 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 14:00 | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 18:30 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |

- 前売開始 10月12日(水)
- 電話予約  03-5565-6000
- お問い合わせ・サンシャイン劇場 ☎03-3987-5281

■チケットのお求めは、サンシャイン劇場、歌舞伎座、新橋演舞場の各劇場前売窓口/チケットぴあ03-5237-9999
チケットセゾン03-5990-9999/丸井チケットぴあ03-5385-9999/CNプレイガイド03-5802-9999/都内各プレイガイド

サンシャイン劇場

池袋サンシャインシティ文化会館4階/地下鉄有楽町線「東池袋」駅下車徒歩5分/JR「池袋」駅下車東口徒歩15分